

Management Club Report

Sept.2003 / Vol.9

Monthly Opinion 脱「製造業型歯科医院」宣言

工業化社会と共に発展してきた歯科医療

歴史上名高い「産業革命」とは、機械化による生産力の飛躍的向上が、社会基盤の根底を革命的に変化させた現象を指しますが、それは18世紀のイギリスにおける繊維業から起こり、その後全産業に及ぶとともにヨーロッパ大陸に飛び火し、農業を基盤として構成されていた西ヨーロッパ封建社会が、市民革命によって崩壊していく流れを強力に後押しすることとなりました。

このように産業革命は中世封建社会から中央集権的近代国家への橋渡し役を務めることになったのですが、それは経済的側面から捉えますと「農業社会から工業化社会への移行」という変化でもあったわけです。

我が国の「産業革命」は、「明治維新」という封建社会から中央集権的近代国家への移行という「政治革命」と同時に一気に行われました。「富国強兵・殖産興業」というスローガンのもと官主導の工業化社会作りが行われたのです。

その後、幾度かの戦争による発展と壊滅を体験しながらも農業社会から工業化社会への脱皮は着々と進行し、1980年代半ばには高度経済成長の象徴とも言うべき大量生産大量消費社会を現出。工業化社会の頂点を極めるに至ったのです。

歯科医療も工業技術、科学技術の進展と共に発達してきました。工業化社会が産み出した大量生産システムを抜きにして今日の低廉な医療費の実現は考えられませんし、新しい治療手法の開発なくして歯科需要の増大はあり得なかったと思います。歯科医療はまさに工業化社会の進化と並行して発展してきたと言えるでしょう。

「脱工業化社会」の意味するもの

アルビン・トフラーが唱えた「第三の波」とは、いわゆる「IT革命」といわれる現代の社会変革だったということでしょうか。規格品の大量生産システムをベースに一大発展を遂げた工業化社会では1980年代後半からオーバーサプライ現象が現れます。ところが我が国では、実質的なオーバーサプライを虚のダイヤモンドが吸収し続けたために実体から大きく遊離した虚構経済が現出し、最後には脆くも崩壊するという悲惨な状態が訪れます。世に言う「バブル経済の崩壊」です。

バブルの崩壊によりようやくオーバーサプライに気付いた日本経済は過剰在